

文章の表現I

各論1 自己紹介・スピーチ

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 自己紹介の練習

1 課題

- 自己紹介する (1分程度)
- コメント役を割り当てるので、自己紹介のよかったところと、改善したほうがよいところを、それぞれすくなくともひとつずつ指摘する

2 自己紹介・スピーチの方法

2.1 原稿

正式のスピーチでは、原稿を読み上げるタイプのものである。この場合は、かなりの時間をかけて原稿を作成し、練習を重ねる必要がある。

略式のスピーチでは、通常、原稿を読み上げるわけではない。ただし、その場合でも、原稿あるいはスピーチ内容のメモは作ったほうがよい。練習して内容を覚え、本番では見ずにしゃべる。

2.2 内容と時間配分

教科書1章にしたがって内容を考えると、

- 名前
- 家族
- 出身
- 興味・関心
- 将来の抱負

の5つを盛り込むことになる。1分の持ち時間を均等に割り当てると、それぞれ20秒である。ただし、順番はこの通りでなくてもよいし、一部を省略したり、別の内容を入れたり、強調したいことを長めに話したりしてかまわない (特に、家族や出身などのプライバシーにかかわる情報は、出たくない人も多いかもしれない)。

2.3 話し方

- はっきりした声で
- 適度な大きさで話し、音量の変化があまりないように注意する (特に文末で声が小さくならないように)
- ゆっくり目に話したほうが多い
- 話題を転換するところでは、間をしっかりとる
- 聴衆の反応を見る

3 準備

- 内容を考えて、1分に収まるように組み立てる
- 時間を測りながら練習して、内容を調整する
- 聞き手の立場に立って、話の複雑なところ、発音の聞き取りにくいところを改善していく
- 録画／録音して聴いてみるとよい
- 自分のしゃべり方の癖を把握しておくこと

4 コメント

- 内容と話し方の両方について、特徴を把握する
- スピーチのどこが気に入った／気に入らなかった、というだけでもよいが、できれば、どういう理由で良い／悪いと思うのか、どのように改善するべきか、というところまで言えるとよい

コメントをもらった側は、いちおうそれについて真剣に考えてみることにしよう。コメントが正しいかどうかは、自分で判断する。

コメントはスピーチに対するものであって、発表者の人格について評するものでないことに注意。

5 参考文献

教科書 1章

6 次回までの宿題

- 教科書第2章を読む
- 自分はこれまでノートをどのようにとっていたか、考えておく